



第50回

パレスチナの国連加盟申請

※2024年5月の毎日新聞記事を元にした文章です。

校閲し、直すべきところを指摘してください。

1 / 2

国連総会（193カ国）は5月10日、パレスチナの国連加盟を支持し、加盟勧告を求める決議案を否決した安全保障理事会に再検討を求める決議案を賛成多数で採択した。投票した加盟国のうち日本を含む143カ国が賛成、米国やイスラエルなど8カ国が反対、25カ国が棄権した。国際社会の総意が示された形だが、正式加盟には安保理による勧告が必要だ。常任理事国の米国の反対が続く限り、見通しはたたない。

安保理では4月、パレスチナの加盟勧告を求める決議案が採決にかけられたが、ロシアが拒否権を行使して否決された。

総会の決議案はアラブ諸国を代表してアラブ首長国連邦が提出し

た。パレスチナは国連憲章に基づく国家としての加盟資格を有し、国連加盟が認めるべきだと明記。パレスチナ国家の樹立を前提とする「2国家解決」への揺るぎない指示を確認した。米国の拒否権行使で安保理の勧告が妨げられたことに「深い遺憾と懸念」も示した。

また決議の付属文書では、パレスチナが国連総会で中東問題でも発言することを認めるなど「特権」も認めた。ただし、「例外的に」と強調されており、外向筋は「台湾の加盟問題を抱える中国などへの配慮だ」とみる。

米国のウッド国連次席大使は投票後の説明で「2国家解決」への支持を強調しつつ、国連の場ではなく「当事者間の直接交渉を通じ

て達成されるべきだ」とする従来

再検討を要請した。

からの主張を繰り返した。米国連
代表部は「安保理で再検討しても、
同じ結果が予想される」としてお
り、拒否権の再公使を示唆してい
る。

欧州諸国は対応が割れ、英国や
ドイツなどは米国と同様の理由で
棄権する一方、フランスやスペイ
ンなどは賛成に回った。日本の志
野光子・国連次席大使は「イスラ
エルとパレスチナは共に、平和的
かつ独立した国家として存在する権
利がある」と賛成理由を語った。
米国の同盟国である韓国や豪州も
賛成した。

パレスチナは2011年9月に
正式加盟を申請。当ても米国の反
対により安保理での審議は棚上げ
にされ、代替策として12年の国連
総会で「オブザーバー国家」に格
上げされた。パレスチナ自治区ガ
ザ地区での戦闘による人道危機が
深刻化する中、24年4月に加盟の